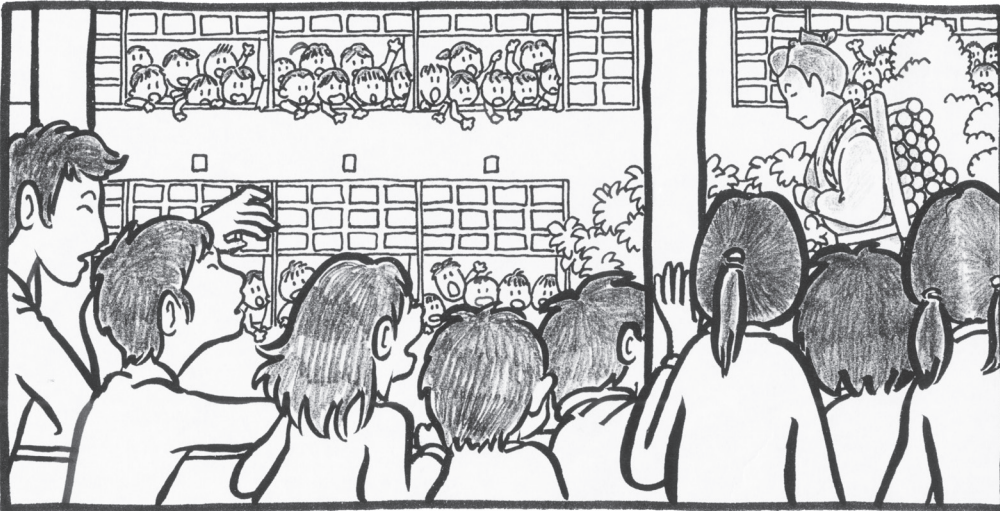
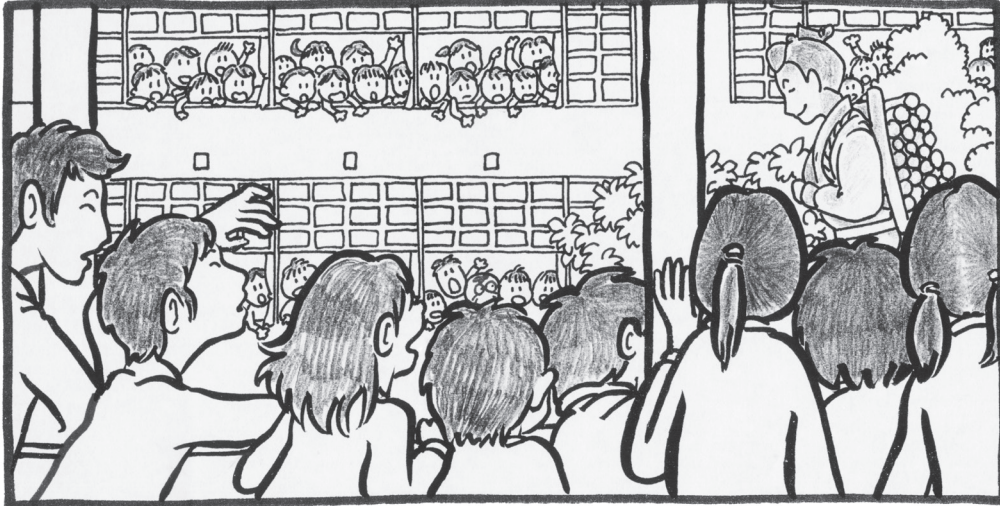




# クイズまじざいざい

秘書広報課 ☎66・1145

2枚の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてね。全問正解された方のうち、抽選で10人の方にクオカードをプレゼントします。



## 応募方法

ハガキまたはファックスに①答え(左の絵に○をつける)②住所③氏名(かりがな)④年齢⑤電話番号⑥広報紙の感想、「意見」などを書いて秘書広報課(〒443-8601 FAX 66・1190)へ。当選者と答えは、広報がまごおり5月号に掲載します。

## 学校のふしぎ話

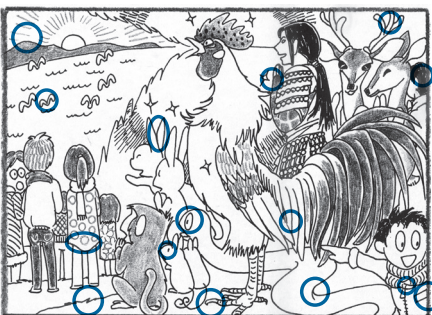
### 『ある小学校の二宮金次郎さん』

学校には2つの顔があります。1つは人間たちのエネルギーにあふれる明るい昼の顔。もう1つは、人間の知らない夜の顔。蒲郡には、この2つの顔を見ることができない不思議なみかん仙人がいるそうです。

もう半世紀近く前のことだった。さわやかな初夏の朝、2年生のKちゃんはランドセルしょって元気いっぱい学校へ行った。学校に着くと、なにやらいつもと違う空気がただよっている。一緒に登校した5年生と、6年生の男の子たちがハイテンションで駆け出した。Kちゃんが教室へ行くこととする。 「Kちゃんー早くこっちはー」 友達Bちゃんがろうか側の窓にもたれて呼んだ。見ると、西から東に続くろうかの窓に、各教室の生徒たちがぎゅぎゅぎゅとくっついていて、KちゃんBちゃんの横から向かいの中学校舎を見ると、あちら側の窓という窓からも生徒たちが鈴なりに顔を出して、中庭のある所を見ている。 「うわーすごいー！」 「Kちゃん見て、池のとなりの二宮金次郎さん。」 「ん？」 「金次郎さんの足が石ころで固められてるんだよ。」 「なんで？ Bちゃん。」 「今日の朝、A先生が一番早く学校に来たら、二宮金次郎さんが本読みながら歩いていったって、そしたら石ころんしゃったんだって、そしたら二宮金次郎さん足ケガしちゃったんだって。それでA先生が陶器の二宮金次郎さんを入れてあげて、石ころで固めて直してあげたんだって。でもその時本がなくなっちゃったんだってよ。」 「へー。」 それからしばらく、夜になると二宮金次郎さんが走るんじゃないかと、隣の神社の垣根沿いに見に来る人が続いた。いつの頃からか二宮金次郎さんは神秘的なアイドルとして代々の学校のPTAのユニフォームにプリントされている。 みかん仙人二宮金次郎さん、本は見つかったかん？」 二宮金次郎「まだ見つからん。時計塔や、学校の裏も探したんだけどね。でも隣の神社の神様に守っていただいでるから困らないよ。」

## ◆1月号の答え

### 『砥神山の金のチャボ』



- 1月号当選者 応募総数 49通 正解者 26人(50音順・敬称略)
- |             |            |             |              |            |
|-------------|------------|-------------|--------------|------------|
| 飯島いづみ(中央本町) | 磯部 暢之(竹谷町) | 笠田 政行(西浦町)  | 杉浦 とみ子(神ノ郷町) | 高橋 尚子(本町)  |
| 田島 大輔(本町)   | 藤井 裕子(拾石町) | 間瀬 加代子(形原町) | 松本 加代子(大塚町)  | 村松 真衣(形原町) |